

分類	主な意見の概要	事業者の見解
環境保全 措置 (つづき)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい人工洞でコウモリ類がねぐらを確保している例があるかどうか明記すべき。</li> <li>・これまで国内での人工洞窟が成功した例はない、人工洞窟設置検討の記述だけで環境影響が低減されるとは言えない。</li> <li>・国内外に人工洞窟の利用の実験例がないとすると、沖縄県が初めて試みることになるが画期的な実験といえる。しかし人工的に造ることは容易ではなく人工洞ができたとしてもそこにコウモリが住みつかどうかの保証はまったくない。</li> <li>・準備書に緊急避難場所としてのねぐらを確保するため、人工洞の設置を検討するとあるが、採餌場所が狭められ種々の物理的要因が加わる中で新しい人工洞にコウモリが適応できるのか。</li> <li>・5箇所洞窟の内、3箇所の自然洞を、埋め立て消失させるとし、残る2ヶ所があるため問題は減少するとも表現しているが、いずれも滑走路直近ともなるものの有効な保全策は示されていない。人工洞の設置のような対処策も記述されているが、代替案としての有効性は世界的に未確認とされ、何の保証もないまますまされようとしている。</li> <li>・人工洞の設置は、どのコウモリのどの時期の利用を考慮して、「どこに」「いくつ」設置する計画なのかの記述がないと評価できない。</li> <li>・人工洞窟の設置に関する科学的、専門的調査と環境影響評価を行い、準備書に明記すべき。</li> <li>・人工洞窟の設置を検討するとしているが、どのような人工洞窟をどのような時期にどのコウモリを目的として設置するのかの記述なしに、影響が低減されるとするのはおかしい。</li> <li>・これまで国内での人工洞窟が成功した例はない、人工洞窟設置検討の記述だけで環境影響が低減されるとは言えない。</li> <li>・人工洞窟の設置を検討するとしているが、どのような人工洞窟をどのような時期にどのコウモリを目的として設置するのかの記述なしに、影響が低減されるとするのはおかしい。また、これまで国内での人工洞窟が成功した例はない、人工洞窟設置検討の記述だけで環境影響が低減されるとは言えない。</li> <li>・絶滅危惧種のコウモリ3種についても、洞窟が破壊された後、人工洞を利用しなかったらどうするのか。</li> </ul>	<p>コウモリ類が洞窟の代替施設を元の洞窟と同じように利用した事例は国内外でこれまでに報告がないため、設置する人工洞窟の構造、内部の微気象、建設場所および周辺の環境について設置前に十分に検討するとともに、設置後にも調査を行います。より確実な保全対策を講ずるために人工的なねぐら内部の環境についての実験などを行い、現在コウモリ類の利用しているねぐらと可能な限り近い環境の人工洞を創出することを検討します。</p>